第四講『建礼門院右京大夫集』（日記〈歌集〉）

次の文章は、『建礼門院右京大夫集』の一節で、出家して大原の寂光院に入った建礼門院を、作者右京大夫が訪ねた場面である。これを読んで、後の問に答えなさい。

女院（にようゐん）、大原におはしますとばかりは聞きまゐらすれど、さるべき人に知られではまゐるべきやうもなかりしを、（1）深き心をしるべにて、（2）わりなくてたづねまゐるに、やうやう近づくままに、山道のけしきより、まづ涙は先立ちて言ふ方なきに、御庵（いほり）のさま、御住まひ、ことがら、すべて目も当てられず。（3）昔の御有様見まゐらせざらむだに、（4）大方のことがら、いかがこともなのめならむ。まして、夢うつつとも言ふ方なし。秋深き山おろし、近き梢（こずゑ）に響きあひて、懸樋（かけひ）の水のおとづれ、鹿の声、虫の音（ね）、（5）いづくものことなれど、ためしなき悲しさなり。都ぞ春の錦を裁ち重ねてさぶらひし人々、六十余人ありしかど、見忘るるさまに衰へはてたる墨染めの姿して、わづかに三四人ばかりぞさぶらはるる。その人々にも、「さてもや」とばかりぞ、我も人も言ひ出（い）でたりし、むせぶ涙におぼほれて、すべて言（こと）も続けられず。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

今や夢昔や夢とまよはれて　(6)いかに思へどうつつとぞなき

仰ぎ見し昔の雲の上の月かかる深山(みやま)の影ぞ　(7)かなしき

花のにほひ、月の光にたとへても、一方(ひとかた)には飽かざりし御面影、あらぬかとのみたどらるるに、かかる御事を見ながら、何の思ひ出なき都へとて、されば何とて帰るらむと、うとましく心憂し。

山深くとどめおきつるわが心　(8)やがて住むべきしるべとを　(9)なれ

（『建礼門院右京大夫集』による）

注

女院…建礼門院のこと

問一　傍線（1）「深き心をしるべにて」、（2）「わりなくて」、（8）「やがて住むべき」の解釈として、それぞれ最も適当なものを次の中から選べ。

（1）　深き心をしるべにて

A　女院の思いやり深さを頼りとして　　B　女院の思いやりを知った上で

C　女院を深く慕う心を導きとして　　D　女院を思う心の深さを知る人として

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

（2）わりなくて

A　お会いできぬまま困って　　B　お会いしなければならず仕方なく

C　お会いしたくてやむにやまれず　　D　必ずしもお会いしたいわけでもなく

（8）やがて住むべき

A　これからすぐに都に引き返す　　B　そのまま出家して大原に住む

C　これから大原にだけ住み続ける　　D　大原から直接都には帰らない

問二　傍線（3）「昔の御有様」を具体的に示すものとして、合致しているものに対してはA、合致していないものに対してはBの符号で答えよ。

ア　秋深き山おろし、近き梢に響きあひて

イ　都ぞ春の錦を裁ち重ねてさぶらひし人々、六十余人

ウ　墨染めの姿して、わづかに三四人ばかりぞさぶらはるる

エ　むせぶ涙におぼほれて、すべて言も続けられず

オ　花のにほひ、月の光にたとへても、一方には飽かざりし御面影

ア＝　　イ＝　　ウ＝　　エ＝　　オ＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　傍線（4）「大方のことがら、いかがこともなのめならむ」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを次の中から選べ。

A　大原の女院のご様子を、なんといい加減に見過ごしてきたのだろうか。
B　大原で女院にお目にかかれたことを、どうして普通のことだと思えるだろうか。
C　大原での女院のお暮らしぶりを、どのようにしたらひと通り見渡せるだろうか。
D　大原での女院のお暮らしぶりを、どうして並みひと通りのことだと思えるだろうか。
E　大原の女院のなさりかたを、どうしたら平気でやりすごせるだろうか。

問四　傍線（5）「いづくものことなれど、ためしなき悲しさなり」は、どのようなことか。その説明として最も適当なものを次の中から選べ。

A　秋は都の方が大原よりもおもむき深いが、私には都の秋がむしろ悲しく思われる。
B　都でも山里でも秋のさびしさは同じはずだが、私には大原の秋は悲しく思われる。
C　都よりも大原の秋はいっそうさびしいはずだが、私にはむしろおもむき深く思われる。
D　山里の秋のさびしさは、どこでも同じはずだが、私には大原の秋がこの上なく悲しく思われる。
E　秋のおもむき深さは、所によってそれぞれことなるが、私にはどこでも変わらず悲しく思われる。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五　傍線（6）「いかに思へどうつつとぞなき」とは、誰のどのような気持ちか。その説明として最も適当なものを次の中から選べ。

A　女院は、現実を受け止めきれないで、落胆してしまっている。
B　女房たちは、昔をなつかしむほかない、と悟りきっている。
C　女房たちは、昔のことも今のことも区別がつかず、とまどっている。
D　作者は、どう考えても現実のこととは思えず、とまどっている。
E　作者は、今も昔に変わらない暮らしをしたいと願っている。

問六　傍線（7）「かなしき」、（9）「なれ」の活用形をそれぞれ次の中から選び、符号で答えよ。

A　未然形　　B　連用形　　C　終止形　　D　連体形　　E　已然形　　F　命令形

（7）＝　　　　（9）＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第四講『建礼門院右京大夫集』（日記〈歌集〉）

①　次の中から「出家」をあらわすものを全て選べ。

ア　世をいとふ　　イ　発心す　　ウ　御髪とく　　エ　世を離る　　オ　頭おろす

②　「おこなふ」の意味として最も適当と思われるものを、次の中から一つ選べ。

ア　勤行する　　イ　実行する　　ウ　旅行する　　エ　催行する　　オ　運行する

③　「さまかへ」の内容として最も適切なものを次の中から一つ選べ。

1　離縁すること　　2　出家すること　　3　零落すること
4　身を隠すこと　　5　髪上げをすること

④　「やがて」の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　いつか遠い将来　　イ　すぐに　　ウ　夜になれば　　エ　気づけば

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第四講

〔解答〕

問一　(1)Ｃ　(2)Ｃ　(8)Ｂ

問二　アＢ　イＡ　ウＢ　エＢ　オＡ

問三　Ｄ　**問四**　Ｄ　**問五**　Ｄ　**問六**　(7)Ｄ　(9)Ｆ

〔現代語訳〕

建礼門院が、大原にいらっしゃるということだけは（私は）お聞き申し上げているが、しかるべき人に了解を得ないではお訪ねする方法もなかったのを、（私は）女院を深く慕う心を導きとして、お会いしたくてやむにやまれずお訪ねして行くと、次第に近づくにつれて、山路のようすから、まず涙は先にたって言いようもなく（悲しいのに）、御庵室のありさま、御住居、事情全てが、（あまりにおいたわしく）全く見ることもできない。昔の（華やかな）御生活を見申し上げない人でさえ、一般の御事情が（実にひどく、大原での女院のお暮らしぶりを、）どうして並みひと通りのことだと思えるだろうか。まして（私のように、女院の昔の御生活を見ている者には）、夢とも現実とも言いようのないことである。秋深い山おろしの風が、近くの梢に響きあい、筧の水の音、鹿の声、虫の音など、（山里の秋のさびしさは、）どこでも同じはずだが、（私には大原の秋が）この上ない悲しさである。かつて宮中で女院御所に春の錦を裁ち重ねたような美しい着物を着てお仕えしていた女房たちは、六十余人もいたけれども、（今は顔を）見忘れるほどに衰えた墨染めの尼姿をして、わずかに三、四人ほどお仕えしておられる。その人たちにも、「なんともまあ」とだけ、私も先方も言っただけで、むせぶほどの涙があふれて、全く言葉も続けられない。

今が夢か、昔が夢かと迷われて、どう思ってみても、現実世界のこととは考えられないことだ
かつて宮中で仰ぎ見た女院を、現在、こうした深い山奥で拝するのは、悲しいことである

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

花の美しさや、月の光にたとえても、その一つだけに（たとえたので）は（その例が）不十分だったほどお美しかった女院のお姿が、今は人違いかと迷われるくらいであり、こういうことを目に見ながら、（私は）何の思い出もない都へ、それではどうして帰るのだろうと、（われながら）疎ましくつらい。

女院を山深くお訪ねして、そこに残しておいた自分の心よ、そのまま出家して（女院のお側〔＝大原〕に）住むための導きとなっておくれ

〔重要単語〕

○しるべ【導・知る辺】…①**導き**。案内すること。②知り合い。
○わりなし【理なし】…①**道理に合わない**。**無理**である。②たえがたい。つらい。③しかたがない。④ひととおりでない。⑤格別すぐれている。
○いふかたなし【言ふ方無し】…**言いようがない**。
○うつつ【現】…①生きている状態。②**現実**。
○ためし【例】…①**例**。先例。②話の種。③手本。
○くものうへ【雲の上】…①天上。高い空。②**宮中**。**内裏**（だいり）。
○あく【飽く】…①**満足する**。②あきあきする。
○あらぬ＋体言…①**他の**。**別の**。②不都合な。
○こころうし【心憂し】…①**つらい**。②**いやだ**。
○やがて…①**そのまま**。②**すぐに**。③ほかならぬ。④そのうち。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第四講　『建礼門院右京大夫集』（日記〈歌集〉）

〔解説〕

① ウ「御髪とく」は「**御髪おろす**」のひっかけ。「御髪おろす」であれば、「剃髪する」＝「出家する」の意味となる。他の選択肢は全て「出家する」の意味。

② 「**おこなふ**」は「**仏道修行をする・勤行する**」という意味で使われる。

③ 「様（を）変ふ」＝「出家する」の意味。

④ 「**やがて**」は「**すぐに**」・「**そのまま**」の意味の重要単語。

〔解答〕

① ア・イ・エ・オ　② ア　③ ２　④ イ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。